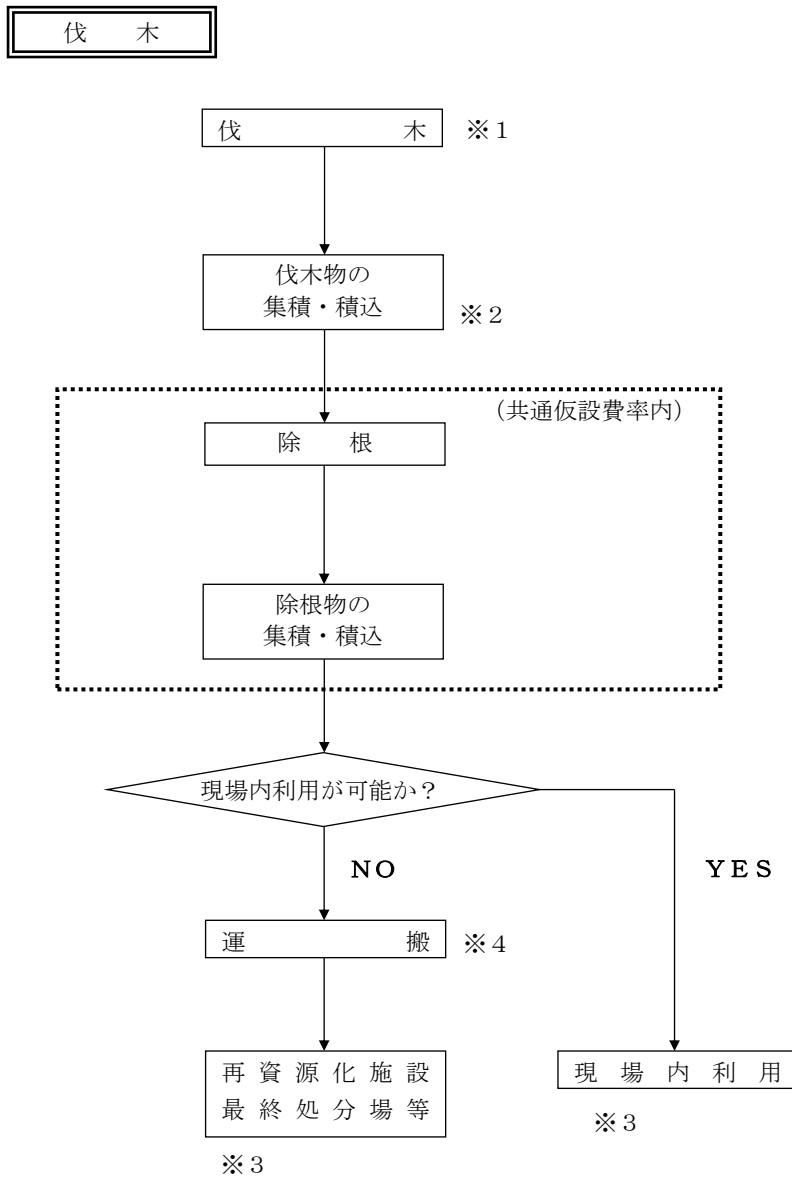


伐木工

1. 伐木工積算フロー

.....で囲まれた部分は、共通仮設費率に含まれる内容である。



- ※1 肩掛式による伐採ができないもの。
- ※2 伐木物の集積・積込にかかるもの。
- ※3 詳細は、鳥取県県土整備部公共工事建設副産物活用実施要領を参照のこと。
- ※4 運搬は、土地改良積算マニュアル（土木工事）を適用する。

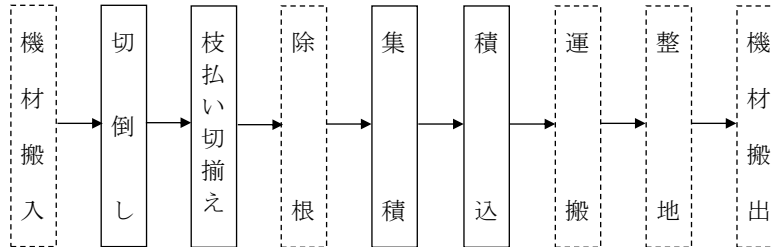
2. 適用範囲

本資料は、共通仮設費の準備費で積上げる、立木の切倒し、枝払いの切揃え・立木集積、立木積込に適用する。

3. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

(1) 立木施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
破線部分は共通仮設費率に含まれる。

4. 施工歩掛

4-1 立木切倒し・枝払い切揃え，集積

立木切倒し・枝払い切揃え，集積の歩掛は，次表とする。

表4.1 立木切倒し・枝払い切揃え，集積歩掛 (100本当り)

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	1.1
特殊作業員		〃	2.3
普通作業員		〃	3.7
バックホウ運転 [掴み装置付]	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	h	5.6
諸雑費率		%	3(5)

注1) 諸雑費はチェーンソーの運転経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

注2) ()内は、伐木区域の中心から搬出口までの距離が15mを超える場合に適用する。

注3) 伐木区域の地形等によって表4.2、表4.3の補正を行うものとする。

表4.2 傾斜による補正

傾斜	0°	0°～15°	15°～30°	30°以上
補正率	0.90	1.00	1.10	1.20

表4.3 植生疎密度による補正

植生疎密度	疎	中	密
補正率	0.60	1.00	1.40

備考 植生の疎密度は、次のとおりとする。

疎：植生被覆率 30%未満

中：植生被覆率 30%～70%

密：植生被覆率 70%以上

4-2 立木積込

立木積込の歩掛は、次表とする。

表4.4 立木積込歩掛 (10t当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
土木一般世話役		人	0.17
普通作業員		〃	0.31
バックホウ運転 [掴み装置付]	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h	2.24

備考 立木の換算係数は、0.55を標準とする。(〇〇m³×0.55=◇◇t)

5. 単 価 表

表5.1 立木切倒し・枝払い切揃え、集積100本当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ運転 [掴み装置付]	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

表5.2 立木積込10t当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		〃
バックホウ運転 [掴み装置付]	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	h		〃
計				

表5.3 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	適 用
バックホウ運転 [掴み装置付]	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-3	

6. 参考数量

起工時における天然生林の伐木に係る費用算定に必要な数量の算出に当たり、次表を参考とすることができ。なお、次表により数量算出を行う場合は、原則として協議の上見積もり等による設計変更を行う。

表6.1 参考数量表

(1m² 当り)

植生密度	植生状況	部位	本数	体積(m ³)	重量(t)
密	山林等で成木が密生している等の状況	幹	1.1	0.10	0.05
		枝葉		0.02	0.01
		根株		0.08	0.04
中	山林等で成木が散在している等の状況	幹	0.6	0.06	0.03
		枝葉		0.01	0.006
		根株		0.05	0.02
疎	雑種地等で成木が点在している等の状況	幹	0.1	0.02	0.01
		枝葉		0.003	0.002
		根株		0.01	0.007

注) 竹の体積・重量は植生密度「疎」で算定を行う。